

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：34503

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2022

課題番号：19K24242

研究課題名(和文) 婦人科がん術後患者の「早期リンパ浮腫自己アセスメントツール」の開発

研究課題名(英文) Development of an "Early Lymphedema Self-Assessment Tool" for Postoperative Gynecological Cancer Patients

研究代表者

矢野 ゆう子 (Yano, Yuko)

大手前大学・国際看護学部・非常勤

研究者番号：70406263

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：婦人科がん術後患者の「早期リンパ浮腫自己アセスメントツール」を開発することを目的として質問紙の作成を試みた。文献レビューと婦人科がん術後リンパ浮腫患者のインタビューから、初期症状として、浮腫、ピリピリした皮膚の違和感、通常みられない持続する症状、重だるさ、皮膚の張る感じ、何となく腫れぼったい、違和感がある、次の日にも残る浮腫、下腹部や陰部の浮腫を抽出した。また、インタビューの結果から、対象は適宜、症状を医療者に報告していること、リンパ浮腫の知識をもとに症状を評価し対処していること、医療者の知識や対応に対する課題は長年課題となっている現状が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

患者自身がリンパ浮腫の初期症状に気づき、それを医療者へ相談する行動は早期の介入において重要な情報源である。そして、初期症状を診断につなげ早期に管理することで症状の重症化を防ぐことができる。婦人科がん術後リンパ浮腫患者が初期徴候・症状をどのように評価し対処しているのか、その後の専門的治療に至るまでの経緯を明らかにすることは、早期看護介入の示唆を得ることができると考える。また、本研究で得られた結果を公表するは、予防指導や症状の重症化を予防する援助の見直し等について検討するための一資料となり得る。

研究成果の概要(英文)：We designed a questionnaire with the aim of developing an "early lymphedema self-assessment tool" for postoperative gynecologic cancer patients.

From the literature review and interviews with patients with postoperative lymphedema after gynecologic cancer surgery, the following initial symptoms were extracted: (1) swelling, (2) tingling sensation and discomfort, (3) persistent symptoms not usually seen, (4) sensation of heaviness, (5) feeling of skin tension, (6) discomfort, (7) edema that remains until the next day, (8) edema in the lower abdomen and pubic region, (9) numbness. In addition, from the interview results, (1) participants reported their symptoms to their health care providers, (2) they assessed and dealt with their symptoms based on their knowledge of lymphedema, and (3) the knowledge of the health care providers and how they dealt with lymphedema remains an issue.

研究分野：成人看護学

キーワード：リンパ浮腫 婦人科がん 早期発見 自己アセスメントツール

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

下肢リンパ浮腫の7割弱は子宮がん患者で(廣田:2017)、下肢リンパ浮腫は上肢に比べ、むくみ、重さ・皮膚の張りなどの症状が強く(Langbecker:2008)、進行して重症化するとたるみや疲労感から日常生活活動に支障をきたすようになる。2013年度「がん社会学」に関する研究グループの調査によると、これらの症状は、子宮がん患者が悩み・負担に思う事の上位を占めており、患者のQOLを著しく低下させる症状でもある。リンパ浮腫は、発症早期に診断して症状をコントロールすることで、軽症の状態を維持し、重症化を避けることができる(小川:2014)よって、発症を早期に発見し診断へと継続することが重要だといわれている。

早期の患者教育はリンパ浮腫のリスクを下げるため、治療前から発症する潜在的なリスクについて患者と家族に教育し、予防を開始することが理想的とされている。予防教育の内容には、リンパ浮腫の原因と病態、日常生活上の注意、肥満、感染の予防、初期徴候に注意し腫脹が生じた場合には医療者に相談することなどが含まれる。こうしたリスク低減に関する知識の提供は、自己管理の遵守を促進する上での重要な要素であり、日本では2008年度の診療報酬に「リンパ浮腫指導管理料」として収載された。2015年に報告されたリンパ浮腫ケアの実態調査では、がん拠点病院における予防指導の実施率は約95%と定着している(奥:2017)。しかし、予防指導を受けた患者は、説明を受けたと認識していても具体的な知識の習得は低く、偏りがあることが指摘されている(水間:2017)。患者には予防指導で得た知識をもとに、可逆的な段階で早期に発見し、早期に受診するなど適切な対処行動をとることが求められている。しかし、実際は客観的に浮腫を認めても気づいていない者や(北村:2011)「その症状がリンパ浮腫なのかわからない」といった主観的な評価に迷う患者もいる(植田:2014)。また、リンパ浮腫の初期症状に気づいていても受診はせず、悪化してから受診に至る者も多く(佐々木:2013)、専門外来初診者の約8割強が不可逆的なstage(症状の改善がみられず皮膚の硬化・線維化がみられる状態)であったという報告がある(作田:2017)。

リンパ浮腫を早期に発見するには、患者自身がその症状に「気づく」ことから始まる。そうした気づきを医療者に報告することで客観的な評価のもと診断へとつながり、指導または治療といった支援を受けることとなる。その主観的な症状に頼らざるを得ない中、国内に統一した指標は見あたらない。これらのことから、まずは患者自身が気づき感じた症状から現状を把握するツールがあれば、発症の可能性を自ら予測することができ、経時的な評価とリンパ浮腫への関心を高めることが期待できると考えた。そして、初期症状を診断につなげ早期に管理することは症状の重症化を防ぐことが可能になる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、婦人科がん術後患者がリンパ浮腫の現状を把握し、発症を自ら予測することができる「早期リンパ浮腫自己アセスメントツール」(以下、自己アセスメントツール)を開発することである。

3. 研究の方法

自己アセスメントツールの開発に向けた質問紙の作成は以下の通りに実施した。

(1) 文献レビュー

婦人科がん関連リンパ浮腫の初期兆候・症状について確認・整理するため、先行研究および専門書や雑誌の記事から初期徴候・症状を探索した。文献検索データベースは、医学中央雑誌 Web 版 Version.5、PubMed、CINAHL で、「gynecological cancer OR endometrial cancer OR cervical cancer OR ovarian cancer」「lymphedema」「lower extremity OR lower limb」「symptoms OR signs」「lower extremity lymphedema OR lower limb lymphedema」「tool OR test OR Measurements OR questionnaire OR scale」を検索語としてかけ合わせ、婦人科がんリンパ浮腫患者の体験する症状や症状の評価に関する自己報告式質問票を抽出した。抽出した質問票は、症状に関する項目や構成要素、特徴について検討した。

(2) 婦人科がん術後リンパ浮腫患者からのインタビュー調査

婦人科がん術後リンパ浮腫患者がリンパ浮腫の症状をどのように評価し対処しているのか、その後の専門的治療に至るまでの経緯を明らかにすることを目的としたインタビュー調査を行った。対象はリンパ浮腫専門院に通院している婦人科がん術後患者10名で、選定基準をもとに治療院長の紹介を受けて選定した。選定基準は、1)子宮がんまたは卵巣がんでリンパ節郭清を含む手術療法を受けた10年以内の成人女性で、2)手術前後にリンパ浮腫に対する予防指導を受けており、3)リンパ浮腫発症後10年以内の者とした。対象者に研究の趣旨や目的、倫理的配慮、インタビューの方法、質問内容について書面をもとに説明をし、同意が得られた場合は同意書に署名を得た。質問内容は、「リンパ浮腫に対する捉え方と予防の実際」「リンパ浮腫症状に対する評価と対処」で、専門的治療に至るまでの経緯を時間的な経過を踏まえ、その時々々の症状に対する認識や対処について自由な語りを促した。インタビューは、プライバシーが確保できる治療院の1室で1人約30分から45分で行った。

4. 研究成果

(1) 文献レビュー

下肢リンパ浮腫の初期徴候・症状は（リンパ浮腫分類のリンパ浮腫 0 期～1 期）外見的变化として「陰部・鼠径部の浮腫」「腰部・下腹部の浮腫」「圧迫痕」「断続的な浮腫」があり、感覚的な変化は「重だるさ」「皮膚の張り感」「腫れぼったい感じ」「違和感」「血管が見えにくくなる」「痛み」「痺れ」「違和感」を抽出した。また、このような症状は「両側性」に生じる可能性がある。

リンパ浮腫の自己報告式質問紙票には、QOL、症状、四肢の機能、国際生活機能分類（ICF）に基づいた機能、障害、健康を評価するツールがあった。下肢リンパ浮腫のスクリーニングまたは症状評価を目的とした自己報告式質問票で、婦人科がんサバイバーを対象とした質問票は、GCLQ (Gynecologic Cancer Lymphedema Questionnaire)、LSIDS-L(Lymphedema Symptom Intensity and Distress Survey- Leg)、Lymph-ICF-LL(Lymphoedema Functioning, Disability and Health Questionnaire for Lower Limb Lymphoedema)、LELSQ(Lower-Extremity Lymphedema Screening Questionnaire in Women)があった。GCLQ は下肢の機能 4 項目とリンパ浮腫症状の 14 項目で構成され、「はい」「いいえ」の 2 択でスコア化されている。LSIDS-L は、症状の強さや苦痛を 5 段階で評価されている。LSIDS-L は、リンパ浮腫症状の強度および苦痛が患者の生活の質に及ぼす影響を 5 段階で評価している。症状の有無を 2 択で評価する。Lymph-ICF-LL は、機能の問題や活動制限、参加制限を 4 段階で評価する。LELSQ は、スクリーニングを目的とし、13 項目の症状を 5 段階で評価する。

(2) 婦人科がん術後リンパ浮腫患者からのインタビュー調査

初期症状に対する評価と対処

対象者は、リンパ浮腫の知識をもとに「明らかな左右差のあるむくみ」に気づいた際に【リンパ浮腫の可能性】があると評価していた。その他、「リンパ浮腫は痛くないとよく言われるがピリピリとかなり痛い。見た目ももちろん大事だが一定部位の違和感は早期の症状だろうと思う」と、視覚的变化ではなく「ピリピリした皮膚の違和感」をリンパ浮腫の初期症状であると捉えていた。また、「右足のだるさがひどく常にさすっていないと気になって。その時点でリンパ浮腫になっているのかなと思った」と、「通常みられない持続する症状」に対しても同様の評価をしていた。リンパ浮腫の診断が遅れた症状に一気に出現した両下肢の浮腫があり、蜂窩織炎を発症するまで対象も医療者も浮腫がリンパ浮腫とは気づいていなかった。気づいた症状に対する対処は、予防指導で得られた対処法をもとに【症状の緩和・悪化の予防】【リンパ浮腫発症の早期発見】のためにセルフリンパマッサージや部分的な圧迫、下肢の観察や計測を行っていた。しかし、「DVD だけではスピードや圧のかけ方が全く分からず、だんだんだんだん適当になっていった」と実践のないセルフマッサージの指導は「自己流のマッサージ」になっていた。

専門的治療を受けるまでの過程

《発症を予測した対処》《医療者主導の対処》《医療者に対する期待の喪失による対処》の 3 パターンの対処の過程が明らかとなった。まず、《発症を予測した対処》のパターンは、対象が発症前からリンパ浮腫について【自発的に知識を獲得】することで【発症した場合に備えた対処の構想】をし、リンパ浮腫の発症を疑った段階で自らの考えに沿った対処ができていた。そうした《発症を予測した対処》は早期診断・早期治療につながり悪化を防止出来ていた。《医療者主導の対処》のパターンは専門的治療に至るまで、医療者に【定期的な症状の報告】をし、【医療者の指示を忠実に実践】していた。しかし、【リンパ浮腫に対する認識の相違】がある場合には、症状の評価や対処に阻害的な影響をきたし、【症状の悪化を自覚】した後に専門的治療を受けていた。《医療者に対する期待の喪失による対処》のパターンの対象は、初期の段階では《医療者主導の対処》で様子を見ていたが、【症状の悪化を自覚】したことを機に【医療者への期待が喪失】し、他施設での専門的治療を切望する様になっていた。

(3) 質問紙の作成

(1)(2)の結果から、初期徴候・症状として、何となく腫れぼったい、痛み、通常みられない持続する症状、重だるさ、皮膚の張る感じ、違和感がある、次の日にも残る浮腫、下腹部や陰部の浮腫、しびれと、感覚的症状を主として抽出した。しかし、下肢リンパ浮腫の症状は多様で、専門書の「強い痛みはない」「徐々にむくむ」「左右差のある浮腫」という知識には当てはまらない場合もあり、症状の表現も多様であるため、問いの表現は抽象度を高くし注釈を記載する方向で検討する。また、専門的治療に至る過程から、対象は適宜、症状を医療者に報告していること、リンパ浮腫の知識をもとに症状を評価し対処していること、医療者の知識や対応に対する課題は長年の課題となっている現状が明らかとなった。対象のリンパ浮腫に対する認識や医療者のリンパ浮腫に対する関心の程度が症状悪化の一要因となっており、今後の検討課題とする。

<引用文献>

- 1) 廣田彰男：正しいリンパ浮腫の診断・治療，日本医事新報社，2017．
- 2) Langbecker D1, Hayes SC, Newman B, Janda M.: Treatment for upper-limb and lower-limb lymphedema by professionals specializing in lymphedema care, Eur J Cancer Care, 17(6), 557-64, 2008.
- 3) 小川佳宏：リンパ浮腫，日本フットケア学会雑誌，12(3), p103-109, 2014．
- 4) 奥朋子，藤田佐和，井沢知子他：がん診療連携拠点病院におけるリンパ浮腫ケアに関する実態調査 日本がん看護学会教育・研究活動委員会報告(平成27～28年度)，日本がん看護学会誌，31巻，124-129, 2017．
- 5) 水間八寿子，城丸瑞恵，仲田みぎわ他：婦人科がんリンパ節郭清術後患者のリンパ浮腫予防のセルフケア実施状況と関連する要因，日本がん看護学会誌 31, 165-171, 2017．
- 6) 北村薫 赤澤宏：乳癌術後のリンパ浮腫に関する多施設実態調査と今後の課題，脈管学，50(6), p715-720, 2011.
- 7) 植田喜久子，札埜和美，鈴木香苗,他：ジェネラリストの看護師が行う乳がん患者への続発性リンパ浮腫の早期発見と発症予防をめざした学習支援の有用性の検討，日本赤十字広島看護大学紀要，14巻，1-8, 2014．
- 8) 佐々木百恵，長谷川智子，上原佳子他：リンパ浮腫のアセスメント能力と看護実践能力育成のための教育プログラムの構築，科研報告書，2013．
- 9) 作田裕美：リンパ浮腫看護モデルの構築- PCAPS からの展開-，科研報告書，2017．
- 10) Jeanne Carter, et al : A Pilot Study Using the Gynecologic Cancer Lymphedema Questionnaire (GCLQ) as a Clinical Care Tool to Identify Lower Extremity Lymphedema in Gynecologic Cancer Survivors, Gynecol Oncol. 2010, 117(2), 317-323.
- 11) Sheila H Ridner : Development and Validation of the Lymphedema Symptom Intensity and Distress Survey-Lower Limb, Lymphat Res Biol, 2018, 16(6), 538-546
- 12) Kathleen J. Yost, et al : Development and Validation of a Self-Report Lower-Extremity Lymphedema Screening Questionnaire in Women, Physical Therapy, 93(5), 2013, 694-703.
- 13) Keeley V, Crooks S, Locke J, et al : A quality of life measure for limb lymphoedema (LYMQOL), Journal of Lymphoedema, 5(1), 26-37, 2010．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Yuko Yano
2. 発表標題 Literature review on early detection and early nursing intervention of secondary lymphedema after cancer treatment
3. 学会等名 EAFONS 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------